

1. 日時 : 2015年2月4日(水)16:00-17:10
2. 出席者数 : 150名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 原油価格が9月以降急落したことにより、2014年度第3四半期決算は石油製品のタイムラグ*による影響を受けたとの説明があったが、2014年度通期見通しへの影響は？

A. 第3四半期決算においては石油製品でタイムラグが発生し、収益が圧縮された。なお、このタイムラグは1月に入っても継続しており、通期見通しにもこの影響を織り込んでいる。

*タイムラグとは、石油製品の売値とコストに時間差が発生すること。石油製品の売値は直近の原油価格が反映される一方、コストはおよそ1か月前に購入した原油価格（産油国における積み月の原油価格）が反映されるため、原油価格の変動局面においては、売値とコストに一時的な値差が生じる。

Q. カセロネス鉱山については、銅精鉱生産のフル稼働到達に今後半年程度を要するとの見通しが示されたが、要因は何か？

A. 生産設備の自動運転プログラムの構築と、廃さいの堆積場の整備に時間を要している。後者について、銅精鉱生産工程で生じる廃さいは鉱山下部の堆積場に貯蔵していくこととなるが、山命終了までの長期に渡る利用を考慮した場合、開始直後は廃さいの性状を確認しながらより慎重にこれを堆積させていく必要があると判断した。現在、現地での対応に加え、日本からも技術スタッフを派遣しており、出来るだけ早期にフル稼働できるよう努めている。

Q. 原油価格や銅価等の資源価格が下落している状況下においては、投資に対するスタンスは慎重にならざるを得ないものと考えている。今後の投資スタンスについて教えていただきたい。

A. 投資スタンスについては、資源価格や為替動向のみならず、当社を取り巻くあらゆる事業環境や想定されるリスクを踏まえて検討している。事業環境が激しく変動する状況下においては、これまで以上に投資判断を慎重に行っていく。

Q. 今回の決算発表において、株主還元方針に変更はあるか？

A. 第2次中期経営計画で示した株主還元方針に変更はない。なお、現時点では、2014年度は1株あたり年間16円の配当を予定している。

以上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。